



大宮まぐろ新聞

Vol.011
2022年6月1日発行
OMIYA LIBRARY

図書館のご近所さん 大宮消防署の巻

図書館のお隣でいつも私たち市民の安心と安全を守ってくれている、さいたま市消防局大宮消防署氷川参道出張所の方々に話を聞きました。

―緊急時の仕事内容を教えてください―
1つ目は、火災現場での消火活動です。消防ポンプ車で燃えている場所・物を高圧の水や泡で消火をします。
2つ目は、救急活動です。病気がケガの人を迅速に病院に送り届けます。特に生命に危険がある人には、救急救命士が医師と連絡を取りながら救命処置を行います。
他にも、救助活動があります。火災で逃げ遅れた人、川や池で溺れた人、車や建物などに閉じ込められた人を救出します。

ある日のお仕事
8:30 出勤→車両・資機材の点検
8:58 ①災害出場
12:00 昼休憩→ミーティング
14:00 訓練
14:33 ②災害出場
15:50 訓練
17:15 夕休憩
18:24 ③災害出場
23:38 ④災害出場
0:15 仮眠→受付→仮眠
6:05 起床
7:00 清掃
2:30 交代→勤務終了
この間にも駆け付けの受付や火災の原因調査、災害の報告書作成などの事務処理とやることはいっぱい！

―大変だったこと、よかったことは？―
辰己さん 病院に搬送した方が後日元気な笑顔で来所して、感謝を述べてくださったことがありま。そんな時はとても嬉しい気分になりますね。
その仕事をしてもよかったと思います。
田島さん 24時間勤務ですので夜中や仮眠中であつても出場しなければいけないこと。あとは、出場時はこの服の上に防火服を着て更に空気ボンベを背負い、建物に入る時はマスクを着替えます。真夏は特に辛いです。消防であつても、救急に支援することがあります。心臓停止状態の方に心臓マッサージをして回復されたことがありま。
竹俣さん 現場は大変です。女性でも同じように出陣します。私たちの仕事は人の不幸の上に成り立っているところがあるのですが、その中で被害を最小限に抑えて助けることができたときは嬉しです。

―最後におすすめの図書を教えてください―
辰己さん 『人は話し方が9割』 永松茂久／著
さるる舎 2019
普段のコミュニケーションとしての話し方・聞き方、大事であると考えさせられ、即実践できるテクニックが書かれています。
竹俣さん 『風と共に去りぬ』 マーガレット・ミッチェル／著
主人公の強く逞しく常に前向きな生き方が好きです。
田島さん 『勝つ続ける意志』 梅原大吾／著
小学館 2012
著者は日本人で初めてのプロ格闘家。ゲームとなった梅原さんです。自伝を交えて、ゲームや仕事に対する考え方・勝ち続けるために必要なこと、経験に基づいた人生においての考え方が記されており、おすすめの1冊です。



左から消防第1係主査の辰己さん・消防署員の田島さんと竹俣さん

―訓練とはどのようなものですか―
消防隊はホースを伸ばし放水する訓練を中心に実施し、その他に配備資機材(三連はしこなど)を使用した救出訓練をしています。
救急隊は救急器材の取扱訓練などを行っています。すべての隊に言えますがさまざまな災害を想定しての動きや、各隊との連携も訓練しています。
―忙しい時期はありますか―
火災は空気が乾燥し始める秋から冬に件数が増えます。救急は、7月・9月の熱中症が増える夏や、空気が乾燥し感染症が流行する冬に忙しくなる傾向があります。

―氷川参道出張所には何名の方が働いていますか―
総員は34名です。各隊が2係に分かれて勤務しており、毎日10人前後が働いています。
―なぜ、消防士になろうと思ったのでしょうか―
辰己さん 幼少のころに火災現場で活躍していた消防士を見て憧れ、消防職員になる決意をしました。
田島さん 学生時代からスポーツをしていて、将来も体力を活かしてやりがいも感じられるこの仕事をしたいと思いました。
竹俣さん 身体を動かすことが好きで、且つ人の役に立つ仕事に就きたいと選びました。

―大変だったこと、よかったことは？―
辰己さん 病院に搬送した方が後日元気な笑顔で来所して、感謝を述べてくださったことがありま。そんな時はとても嬉しい気分になりますね。
その仕事をしてもよかったと思います。
田島さん 24時間勤務ですので夜中や仮眠中であつても出場しなければいけないこと。あとは、出場時はこの服の上に防火服を着て更に空気ボンベを背負い、建物に入る時はマスクを着替えます。真夏は特に辛いです。消防であつても、救急に支援することがあります。心臓停止状態の方に心臓マッサージをして回復されたことがありま。
竹俣さん 現場は大変です。女性でも同じように出陣します。私たちの仕事は人の不幸の上に成り立っているところがあるのですが、その中で被害を最小限に抑えて助けることができたときは嬉しです。

ゆかりの文学コーナー ～井伏鱒二の「普門院さん」～

「普門院さん」では、作者の知り合いらしい「私」が奇妙なまじかたで、或る邸の庭に入り込み、道山和尚と老人の会話を聞いてしまいます。老人は、若いころ新政府側に属し小栗を斬首した本人でした。共に念仏を唱える2人を見て、「私」は思ひがけなく飛び込んだ歴史の1ページを見届けたような気持ちで立ち去るのです。

小栗の生涯と幕末・明治の混乱を思いながら読むと、和尚の憤りや老人のやるせない思いがより強く伝わってきます。また「私」が目撃した「過去」と、門の外に出た時の「現在」とのコントラストが一層際立ちます。

後に井伏は新しい資料によって「普門院の和尚さん」という小説を発表しています。こちらには「私」は出てこず、作者が老人と和尚を直接見つけているようです。読み比べてみるのも一興です。

取り扱った本
『普門院さん』全集 第四巻 増補版 井伏鱒二／著／筑摩書房／1974年
『普門院の和尚さん』全集 第四巻 増補版 井伏鱒二／著／筑摩書房／1995年
『神皇正統記の残した日記』井伏鱒二／著／講談社／1995年
参考資料
『井伏鱒二の横顔』河野好成／編／学生堂／1993年
『小栗上野介をめぐる物語』河野正男／著／群馬出版センター／2003年
『小栗上野介 忘れられた悲劇の幕臣』村松泰資／平凡社／2010年

大西民子の一首

焼け跡に水道栓はしぶきわつ
艦砲射撃のかの日のごとく
『光たばねて』より

水道栓から水がしぶきあげて出ている光景を見れば民子は、艦砲射撃を受けた岩手県釜石の釜石を思い出します。製鉄所のあった釜石は、戦時中に2回におよぶ艦砲射撃を受け壊滅状態になりました。当時市内で教員をしていた民子は、生徒連れで遠野へ疎開し、そこで終戦を迎えます。

くらコン!

みなさんが最近ふしぎに思っていることは何ですか?
疑問を感じたことや興味を持ったことについて、図書館を使って調べる方も多いでしょう。そんな方の発表の場として「図書館を使った調べる学習コンクール」があります。参加者は小学生から大人まで。昨年度の応募総数はなんと10万6千点以上!『早くして!』のヒミツをときあかせ!!(小学2年生)、『ゆうびんポストはなぜ赤い?』(小学3年生)など、興味をそられる作品が全国からたくさん集まりました。

調べるテーマや参考文献は人それぞれです。調べ物のお手伝い(レファレンス)は、いつでも受け付けています。

今年の夏は、図書館で知的好奇心を満たしてみたいいかがでしょう。

コンクールの詳細はこちら!
<https://www.toshokan.or.jp/>
(公益財団法人 図書館振興財団HP)

サムライとアメリカ人

1853年7月(嘉永6年6月)、アメリカのペリー提督率いる4隻の黒船が浦賀沖(神奈川県横浜)に到着しました。鎖国中の日本と国交を開くのが目的です。一般的には「威嚇によって開国させた」と言われていますが、本当はペリー側も必死でした。航海記によれば、来日前のペリーは日本の地理・歴史・自然・文化などあらゆる分野を徹底的に調査しています。遠い未知の国との交渉は、彼らにとっても命がけだったのです。

「最高位の役人と交渉する」というペリーの希望を受け艦上に向かったのは、浦賀奉行を名乗る香山栄左衛門。実はたけなわの力でした。本物の浦賀奉行が逃げたのではなく、西洋砲術を学ぶ外国船との交渉経験がある香山が抜擢されたのです。この人選は成功でしたが、香山は「優雅で礼儀正しく、人望は高く、威厳がある」とアメリカ側の信頼を勝ち得ています。



参考文献

『ペリー提督日本遠征記』上下巻
M・C・ペリー/著 KADOKAWA 2014
『南浦書信』ペリー-来航と浦賀奉行戸田伊豆守氏
栄の書簡集一
浦賀近世史研究会/監修 未来社 2002

なにをかって、まいばんきつと、いってやるんだ。
「ずーっと、ずっと、だいすきだよ」って

ずーっと ずっと
だいすきだよ



私の家には犬、猫、亀と一緒に暮らしています。その子も大変すばらしく、家族の一員として愛と楽しい日々を与えてくれます。

今いる動物たちが我が家に来る前、一頭の大を飼っていました。名前はドン。雑種です。体の大きな子で、まだ小学生だった私は、よく散歩で引っ張られていました。ところが私は、年を重ねていくうちにドンに関心を示すことが少なくなりました。散歩や頭を撫でることも減っていった頃、ある日ドンが突然具合を悪くし、獣医さんから「もう長くない」との一言。その時初めて、「いつもいるのが当たり前だ」と思っていた存在がいなくなる、という現実を突きつけられ衝撃を受けたのを覚えています。

ドンを見送った後、私は一晩中泣いて「もっといっぱい遊んであげればよかった」「もっと散歩に連れて行けばよかった」「もっと…」ドンとの思い出よりも後悔の方が大きかったのです。子どもだったとはいえ、愛情深く接し続けることが出来なかった自分を強く恥じました。この絵本を読んだとき、ドンのことが頭に浮かんで涙が止まりませんでした。「ずっとだいすきだよ」という気持ちで共に過ごすことが大切だと身に刻みしました。

今我が家にいる子たちにはいつも「ずっと、だいすきだよ！」の言葉をかけています。そして、心の中にいるドンにも。



紹介した本
『ずーっと ずっと だいすきだよ』
ハンス・ウィルヘルム/えとぶん
久山太市/やく 評論社 1988

名言

大宮20景

中山道からさいたまスーパーアリーナを結ぶほこすぎ橋までケヤキ並木が400m続く場所があります。1964年、3年後の埼玉国体の為に植えられたこのケヤキは、春になると若葉とともにうすい黄緑色の小さな花を咲かせ、夏は見上げる濃い緑色、地面を見れば木漏れ日が気持ちよく、秋になると紅葉も楽しめます。ほうき状の枝ぶりは葉を落とした後も存在感があり、四季の変化を楽しむことができます。

ケヤキは県内に古くから自生していたことから埼玉県の木・さいたま市の木に制定されています。



並木と交差するほこすぎ橋は、氷川参道が明治から大正初期に杉の緑道であったため「鉾杉」の名前がつけられました。散歩やサイクリング・鉄道ウォッチングに最適な場所ですが、夜のライトアップもオススメです。

海みたいなゼリーって
どんな味がするんだろう。

子供の頃に繰り返し読んだ本のなかにそれは登場する。大きな透明ボールいっぱい青と緑の混ざり合った砂糖と塩を入れ間違えた手作りゼリー。じんじんしょっぱいその海を食べたら夏が終わってしまうのだ。

我が家でも昔クリスマスケーキに間違えて塩を入れて焼き上げてしまい、最終的に父に押し付けられた記憶があるのでとても食べられたものではないことはわかる。せっかくなので自分で作ってみることにした。食べ物や粗末にしたいわけではないのでできればおいしいものを目指したい。原作ではミントとリキュールを使っているが、子供舌なので他の素材を探す。うーん意外と青い飲み物って売っていないんだな……。海なし県民である自分の一番身近な海といえば真青というよりどす黒い東京湾だが、さすがにあの色を出すには墨汁でも混ぜるしか方法がない。



何件か目の店でやっといかにも身体に悪そうなジュースや練っていくと色が変な味。果物を潰してゼラチンで固める。さて完成度は……？

タイトルの『サマータイム』はジャズのスタンダードナンバーで、大きくなってから初めて聞いて、少し物悲しい響きに甘いだけではない味わいを感じた。この曲と共に食してみたい。

紹介した本
『サマータイム』
佐藤多佳子/著 新潮社 2003

大宮図書館 ホームページ

大宮図書館 twitter

twitterではイベントやスタディーコーナーの待ち人数など大宮図書館の情報を日々つぶやいています。ぜひ、フォローしてみてくださいね！

この刊行物の書影画像はBOOKデータASPから引用しています。

あの席は

ルーベをさがしながら眺めていた今日の頃

絵巻物や海図などじっくりと見たい

何かいい方法はないかな

いつもおなじみの席に

3階へつり階段を上り

そんなおなじみの席に

拡大読書器であつた

よく見える

またまた大宮図書館

またまた大宮図書館

紹介した本
『チア男子!!』
著者 朝井リョウ 著
集英社 2010年
紹介者 いーたん



今回のテーマは「スポーツ」!

次回

おひめや 読書バトン

第7回 テーマ 「爽やか」

本を読んでいる間や、読み終わった後も爽やかな気分になれる爽快感ある本ってたくさんありますよ。ちよっと落ち込んだ時や、元気を出したい時に、気分転換でよく読んでみました。今回は「チア男子!!」を紹介します。

実在する男性チアリーダー部をモデルとし、映画・舞台・アニメ化された小説です。ご存知の方も多いかと思いますが、主人公の晴希は、幼い頃から柔道部に打ち込んでいた大学1年生。怪力をきっかけに柔道部を退部するも、同時に柔道をやめた幼馴染と「ある理由」から大学チアリーダーに。入学当初の晴希のみのチーム結成を、学祭で演技をするために、朝も、昼も、夜も、毎日必死で練習の日々を過ごします。いろいろな苦悩や葛藤を抱えながらも、彼らはさらに努力を重ね、全国大会出場を目指すというスポーツ小説です。

私自身も学生時代、運動部に所属していました。毎日泥の日も天候に関係なく練習する日々。主人公たちと重なる部分が多く、物語を読み終えた後「あんな時もあんな」この小説を読んだ思い出が、映画でした。原作も気になり手に取って読み進めていったところ、「頑張れ」と勝利に主人公たちを応援していました。また自分も日々頑張ろう!と元気をもらいました。主人公たちと年齢が近い方は、共感できることが多いかと思いますが、大人のな方は「青春だな」と、終始爽やかな情景を思い浮かべながら読むことができるのではないかと思います。物語の最後には、今までの努力や成長、そういつたものが感じられる感動が待っています。結束が気になった方は、ぜひ本を手にとって読んでみてください。